

2 1 世紀の日本のかたち（69）

道州制-地域からの国づくり（その5）

— 中国州もしくは中国・四国州 —



戸沼幸市

<（一財）日本開発構想研究所 代表理事>

1. 中国の地政学と歴史

鳥取、島根、岡山、広島、山口の5県から構成される中国地方は、人口756万人、面積3万2千km²、域内総生産約28兆円で中東のアラブ首長国連邦、南米のコロンビアに匹敵する経済規模を誇っております。

南北約100km、東西約500kmの本州中央部から西側の半島状のこの領域は、北は日本海に、南は瀬戸内海を挟んで四国に直面しています。そして西端は関門橋と関門トンネルによって北九州に結ばれております。

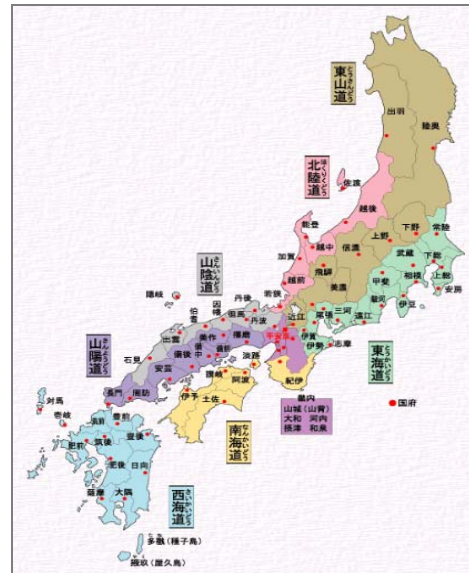
地形的特徴は、中国地方の脊梁をなす中国山地（1,000～1,300m）が東西に走り、日本海に向き合う北側の日本海側気候の山陰地方と、瀬戸内海に面する南側の瀬戸内海気候の山陽地方に二分されて捉えられます。これは日本の古代国家の律令制における広域地方行政区画、五畿七道のうちの山陰道、山陽道とも対応します。なお、山陽地域は中国山地寄りと、瀬戸内海沿岸部では土地利用は相当に異なります。

主たる居住環境の築かれる平野として日本海側に鳥取、倉吉、米子、出雲平野、瀬戸内海側に岡山、福山、広島平野があり、ここに古くからの都市が築かれております。

小規模な居住環境としては伝統的な農漁村

落が中山間地域と島嶼部に存在し、これらが特に過疎化、高齢化、限界集落問題に直面しているのです。

五畿七道における山陽道と山陰道



資料：国土交通省 関東地方整備局ホームページ

(www.ktr.mlit.go.jp/yokohama/tokaido/02_tokaido/04_qa/index1/a0101e.htm)

我が国最大の内海である瀬戸内海-東西450km、南北15～55km、面積2万2千km²（瀬戸内法と瀬戸内法施行令による範囲）は生物多様性を保っている貴重な自然の宝庫です。動物3,000種、植物5,000種、魚介類600種ほどと報告されており、内海式海岸風景を代表する瀬戸内海国立公園になっています。瀬戸内海には700以上の島々があり、そのうち

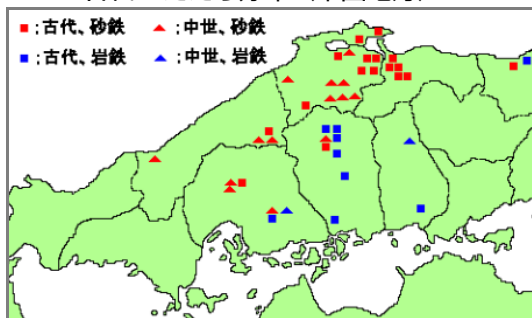
人が住んでいる有人島は、約 160 島とされています。

中国の瀬戸内海沿岸地域は、四国側と共通の里海文化圏として栄え、歴史的にも多様な生活文化を創り出してきました。

中国地方はまた、日本海（東海）に面しており、対外的に朝鮮半島（韓国、北朝鮮）と対面し、「竹島」問題などがあり、今後の韓国、北朝鮮、ロシア、中国（中華人民共和国）などの政治動向が中国圏の将来像と深く関わっています。

中国地方にも旧石器、縄文、弥生、古墳時代の生活史を示す数々の遺跡が残されています。このうち弥生～古墳時代には水稻農耕と関連して「たたら」における鉄器文化を基礎とした有力豪族が吉備、出雲、三次盆地などに生まれ、大和朝廷に対峙する政治勢力を築いた史実が残されています。

古代のたたら分布（中国地方）



注：中国地方における古代から中世にかけての製鉄遺跡の分布とその使用鉄原料を示す。

資料：日立金属ホームページ

(<http://www.hitachi-metals.co.jp/tatara/nmp0202.htm>)

大化改新後、大和朝廷の所在する畿内と北九州、そして大陸を結ぶ回廊として山陰道、山陽道の位置づけがなされました。

山陰地方の国づくりの物語として、古事記にある^{オオクニミコト}大国主命の因幡の白兔（稲羽の素兔）との出会いに始まる、出雲国造りの顛末は、物語文学としても面白いものです。大国

主を祀る出雲大社は今年（2013年）5月、60年ぶりの「平成の大遷宮」が行われました。

山陽道については瀬戸内海航路が整備され、これに面した地域が古代以来主要な居住地として発展を遂げることになります。

大和朝廷の頃の主要な瀬戸内海航路



資料：瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

日本の古代～中世史の主題は古代大和朝廷の成立以来、全国統一の旗を掲げる勢力、公家、武家の相克の歴史といえますが、瀬戸内海はこの大きな舞台でした。平安時代における平家盛衰の物語の中で厳島神社（世界遺産）が残されています。

戦国群雄割拠の中で毛利氏が広島を拠点とし、中国一帯を治め、織田・豊臣・徳川を畏怖させたと伝えられています。しかし近世、江戸幕府成立以後は、幕府の強力な分割統治により、豊臣側であった毛利もその中に小さく組み込まれ、中国は国家の政治中心からは離れたものになります。

しかし、固有の地理・地形、自然の中に個性的な城下町が各地に生まれ、歴史を刻みました。産業面でのアジア初の世界遺産となった石見銀山が有名であり、戦国時代後期から江戸時代前期にかけての最盛期には世界の銀生産の3分の1を生産したといわれています。

幕末から明治維新にかけて、中国の雄藩、

長州は薩長連合を組んで倒幕を果たし、新時代の起点になりました。長州の伊藤博文、木戸孝允、山縣有朋、井上馨らは明治政府にあって新国家の組み立ての骨格づくりに中心的役割を果たしました。

特に周防出身の伊藤博文は、明治憲法起草の中心人物であり、初代首相（4度の組閣）を務め、日清戦争などに当事りました。そして初代韓国統監となり、明治 38（1909）年、旧満州のハルビン駅で大韓帝国時代の朝鮮の民族主義活動家、安重根に暗殺されました。伊藤博文の生涯には今日的問題とつながって日本の近代史が凝縮されていると感じます。

中国地方の産業は昔から瀬戸内海という豊かな自然資源をベースに成り立っていますが、近代に入って大工業地帯である北九州と阪神をつなぐ主たる輸送路となり、特に第二次大戦後は重要港湾が築かれ、瀬戸内工業地帯が形成されました。瀬戸内海沿岸には蓄積のあるものづくり産業、化学や鉄鋼などの基礎産業、輸送用機械などの加工組立産業が集積しています。

日本海側、山陰地方では、中海沿岸の島根・鳥取両県にまたがる 6 市 16 町 2 村は昭和 41（1966）年 3 月、中海地区新産業都市の指定があり、木材、食品加工、電機などの分野に一定の集積が見られたものの、昨今、鳥取、島根の両県は急速な人口減少、高齢化の波に直面しています。

中国地方の近代史を語る上で欠かせないのは、昭和 20（1945）年 8 月 6 日のアメリカによる広島原子爆弾投下です。現在、原爆ドームが世界遺産に指定され、世界の核軍縮運動の原点になっています。

九州・長崎と共に、中国・広島への原爆投

下は日本近代史に刻まれた消しようもない傷跡です。そして日本において、3. 11 の福島原発の事故は改めて 21 世紀の日本の未来における「原子力」をいかに扱うべきかを問いかけております。

2. 21 世紀の中国ビジョン

「中国圏広域地方計画—瀬戸内・日本海に臨む基幹産業と里山の資源で創る交流圏域—」は、四国圏と同様、全国に 10 年先駆けて人口減少、超高齢化に向かっている中国社会に対応しつつ、東アジアの中でいかなる地位を占めることができるかが注目されます。

「中国圏の課題」

1. 急激な人口減少、超高齢化への対応。日帰り交流困難地域、情報格差の解消。山間地域における限界集落問題。都市地域における市街地空洞化問題。山陰・山陽地域間の人口・所得格差への対応。基礎自治体の再編と住民への必要なサービスの確保。「新たな公」の活発化。
2. 拡大する東アジアとの経済交流基盤の整備。ものづくり産業の強化と弱体なサービス産業の補強。自然災害への対応。エネルギー多消費と地球温暖化対応、瀬戸内海などの水環境の保全。

「中国圏のポテンシャル」

1. 東アジアや西日本における交流の歴史と地理的優位性
2. 欧州の中規模国に匹敵する人口、世界第 30 位台前半の経済力（人口 756 万人、GDP 28 兆円）
3. ものづくり産業の強みによる自立的発展の

可能性

4. 分散するさまざまな規模の都市と豊かな自然環境の共存の可能性

「中国圏の将来像」

1. 地域の多様性を活かした交流・連携で、持続的に発展する中国圏
- ・多様な地域が連携した一体感のある中国圏の形成
 - ・隣接圏を含めた交流・連携による活力・魅力の向上
 - ・東アジアを始め、世界に開かれた交流・連携
 - ・中国圏の持続的発展を支える多様な人材の育成・確保
2. 産業集積や地域資源を活かした新たな挑戦で、持続的に成長する中国圏
- ・国際競争力のある産業の振興
 - ・地域資源を活かした地域経済の活性化
 - ・地球温暖化・エネルギー問題への対応による産業の振興
3. 多彩な文化と自然を活かして、多様で豊かな生活を楽しめる中国圏
- ・中山間地域等と都市地域との交流・連携による生活サービス機能の確保
 - ・安全・安心な国土・地域づくりの推進
 - ・多様な主体が連携・協力した地域づくりの推進
4. 将来において横断的に持つべき視点
- ・多様な人材の育成・確保
 - ・低炭素・循環型地域づくりの推進
 - ・災害に強い国土・地域づくりの推進
 - ・基幹的交通・情報通信ネットワークの形成
 - ・都市地域と中山間地域等を総合的に捉えた地域戦略の推進

「将来像実現に向けたプロジェクト」

計画案には15のプロジェクトが列記され、いずれも魅力的なものですが、特に興味深い項目については以下のような具体的な取り組みがなされております。

◇ものづくり産業の強化

- ・技術開発等を通じた基幹産業の国際競争力強化
- ・瀬戸内海に集積するコンビナートの高度統合化等を通じたリノベーション
- ・産業クラスター活動の広域連携による次世代産業の創出等の促進
- ・戦略的企業誘致と産業連携を支援する基盤の整備

◇北東アジアゲートウェイプロジェクト

- ・北東アジア地域との交流の促進
- ・日本海側における拠点都市機能の強化
- ・北東アジア交流を支える交通基盤の強化

◇里地・里山・里海における農林水産業再生プロジェクト

- ・過疎・高齢化の進行等に対応した担い手の育成・確保
- ・生産性向上に資する生産基盤の整備と経営高度化
- ・売れる農林産物・加工品づくり
- ・農山漁村の地域資源を活用した交流及びあらたな産業振興の促進
- ・森林・里山・農地の多面的機能の維持・保全・再生

◇低利用資源を活用した低炭素・循環型地域プロジェクト

- ・自然・産業資源の活用によるエネルギー源の多様化・分散化の促進
- ・基礎素材産業を活用したりサイクルの推進

- ・環境負荷低減型の地域づくり
- ・低炭素・循環型社会に向けた調査・研究の促進

◇瀬戸内海の保全・活用プロジェクト

- ・瀬戸内海の魅力を守り伝える体制の強化
- ・航路を始めとする交通体系の再構築
- ・協働による瀬戸内海の環境保全と創造
- ・瀬戸内海の交流促進とブランドの構築
- ・瀬戸内海の魅力を活かす離島地域等の振興
- ・瀬戸内海を活用した防災ネットワークの整備

◇中国圏の歴史・文化発信とまるごと観光推進プロジェクト

- ・魅力ある観光地の形成とネットワーク化
- ・東アジア地域を中心とした外国人観光旅客の来訪促進
- ・魅力ある歴史・文化・自然の保存・継承・創造と情報発信

3. 中国州の課題とイメージ

日本列島の主島、本州が西に突き出した半島状の中国地方（圏）は、北に日本海を介して朝鮮半島などの北東アジアに向き合っています。そしてこの大地域は南に瀬戸内海を挟んで四国、西は北九州、東に近畿に近接しているという特異な地政学的位置を持つ日本の優れた人間居住環境です。

21世紀の中国圏は、持続的成長を目指し、「瀬戸内海、日本海に臨む基幹産業と里山の資源で創る交流圏」をビジョンに掲げております。

但し、当面している課題として、急速な人口減少問題があり、特に山陰側、鳥取・島根の両県は100万人を大きく割り込み、鳥取県は2030年に50万人を下回ると予想されてお

ります。中国圏全体としても2025年には700万人を割り込むと見込まれています。

この少子高齢化、人口減少社会の状況において、単一的な生活圏の見直しは急務であり、県境の枠組みを越えた取り組みが必要と考えます。

中国・四国における県別推計人口

		平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)
中国 地方	鳥取県	589	567	544	520	494	468	441
	島根県	717	687	655	622	588	555	521
	岡山県	1,945	1,913	1,868	1,811	1,749	1,682	1,611
	広島県	2,861	2,825	2,767	2,689	2,599	2,499	2,391
	山口県	1,451	1,399	1,340	1,275	1,208	1,139	1,070
	計	7,563	7,392	7,175	6,917	6,638	6,342	6,034
四国 地方	徳島県	785	756	723	686	649	611	571
	香川県	996	969	937	900	860	818	773
	愛媛県	1,431	1,383	1,329	1,269	1,206	1,141	1,075
	高知県	764	730	693	655	616	576	537
	計	3,977	3,838	3,683	3,510	3,331	3,146	2,956
中国・四国	計	11,541	11,230	10,857	10,427	9,969	9,488	8,989

資料:「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)

中国圏にあつては、山陰側と山陽側とがより交叉する生活圏の再構築が求められており、在来の県単位の行財政の枠組みを地方分権・地方主権の立場を掲げ、道州制「中国州」に変換し、大きく改善すべき事態に来ているのではと考えます。

仮に「中国州」が誕生するとした場合、「州都」はどのような場所になるのかの思考実験は「中国州」のかたちを考える上での参考となりましょう。山陽側か、山陰側か。あるいは「中国州」創設のねらいが両地域の交流にあるとして、新州都は中国山地を含みいずれかの高原に求めるというのも一案と考えます。

4. 中国・四国州

かつて、筆者も参加した早稲田大学21世紀の日本研究会案(1970年)では、日本列島を日本海側と太平洋側を含むように輪切り状に区分し、その一例として「中国・四国州」を提案しました。

1970年当時、日本海沿岸域は裏日本といわ

れており、太平洋ベルト地帯の開発が盛んであり、これに対して早大案はアンチテーゼとして21世紀、日本海地域にもっと光を当てるべしとしたものでした。

当時の国際政治状況として、日本海の対岸域は日本との交流が閉ざされた状況にあり、日本海が“平和の海”として北アジアの交流・交易の空間になるようにと願いを込めたものでもありました。

あの時から40年経った現在では、北朝鮮は未だですが、ロシア、中国、韓国との国交、交流がよほど活発になっております。

この状況の中で中国圏広域地方計画も、北東アジアのゲートウェイたるべく日本海域を重視しております。

また、この計画では近接他圏域との交流、特に瀬戸内海を介して対面している四国とは一体たるべしとしております。

中国と四国の主たる居住域は、瀬戸内海を内海として成り立っています。

「中国・四国州」の構図はこの歴史的経緯を踏まえ、瀬戸内海を中軸ゾーンとし、ここに州都を定め、日本海域と太平洋域を含む、世界に向き合うダイナミックなものです。

21世紀の日本のありようを語るキーワードとして「持続的成長」がありますが、日本の急速な人口減、超高齢化は、持続はともかく成長については難しい場面があり、むしろ停滞や衰退場面が現れています。

この事態において日本も各地域もその成長戦略は世界との交流、特に東アジアとの交流は欠かせないものです。

この点で、中国地方と四国地方が一つのまとまった「州」となれば、日本列島の東西をつなぐ豊かな瀬戸内海の人間居住の場を擁し、

日本海域と向き合う中国地方と、雄大な太平洋と向き合う四国地方が一つの州となり、ここに人口1,000万人級の堂々たる道州制「中国・四国州」を画くことができます。

21世紀全体を見通した国土、国家像を、中国・四国から大胆に構想してもらいたいものです。

【参考文献】

1. 「平凡社大百科事典」平凡社、1985
2. 「中国圏広域地方計画」国土交通省、平成21年8月
3. 「中国圏広域地方計画の進捗状況について（平成24年度）」中国圏広域地方計画協議会、平成25年9月
4. 「中国圏広域地方計画の進捗状況について（平成24年度・概要版）」中国圏広域地方計画協議会、平成25年9月
5. 「中国圏広域地方計画プロジェクト参考資料」中国圏広域地方計画協議会、平成21年8月
6. 「古事記（上）全訳注」次田真幸、講談社学術文庫、2013年3月
7. 「古事記物語」鈴木三重吉、春陽堂、1932年10月
8. 「山川日本史総合図録」山川出版社、1991年1月

(2013. 12. 25)

韓国、北朝鮮、ロシア、中国（中華人民共和国）と中国地方



(筆者が加工)

日本海沿岸における北東アジアゲートウェイプロジェクト

日本海沿岸地域と北東アジア地域との地理的接近性や密接な交流の歴史的背景を活かし、官民の連携による経済・文化交流の深化、交通基盤の整備、定期航路等の維持・充実、拠点都市機能の整備・集積による中国圏の玄関口としてのゲートウェイ機能強化を図る。

具体的取組内容

北東アジア地域との交流の促進

- 地方政府レベルの国際交流の推進等によるゲートウェイとしての知名度向上
- 見本市への出展支援や、現地での物産展、商談会の開催等による民間の貿易・経済交流の促進
- 大学・研究機関との学術・研究交流や北東アジア研究の推進



日本海側における拠点都市機能の強化

- 自立した拠点都市圏の形成に向けた官民による広域連携の強化
- 国際・広域交流の拠点性確保に向け、国際交流拠点施設を活用した国際的なイベントや会議の開催
- 快適で安全な、賑わいと活力のある市街地の形成による拠点都市機能の強化【松江市等】



北東アジア交流を支える交通基盤の強化

- 日本海の拠点となる港湾や空港の機能強化、官民連携による貿易促進等に取り組むことにより、国際路線及び定期航路の維持・充実
- 交通・物流拠点となる港湾・空港と圏域内外の各地域を連絡する高規格幹線道路ネットワーク整備

- 新規航路開設状況

- ・ 濱田港
- ・ ウラジオストク(ロシア) RORO船航路開設 (H20.7月開設)
- ・ 境港-東海(韓国) ウラジオストク(ロシア) 新規フェリー航路 (H21.6月就航)



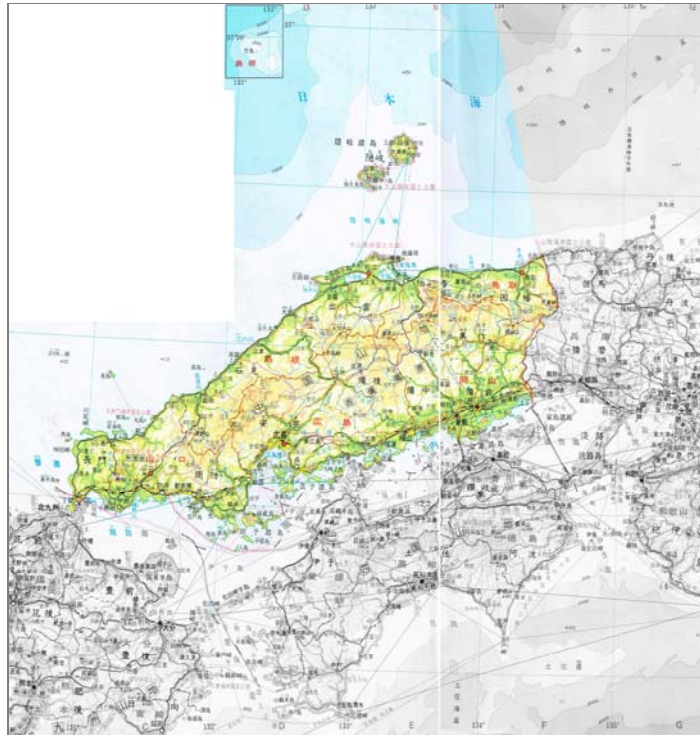
境港-東海-ウラジオストク 就航記念式典



(出典)「北東アジアゲートウェイ構想の推進に関する調査」第1回検討会報告資料 (H21.1.21)

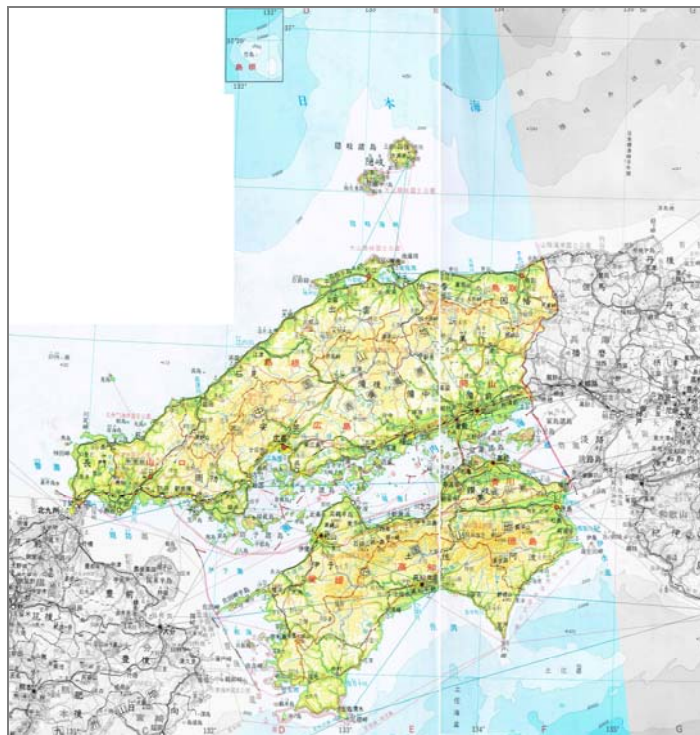
資料：「中国圏広域地方計画プロジェクト参考資料」中国圏広域地方計画協議会、平成21年8月

日本海・瀬戸内海に面する中国地方（中国州）



(筆者が加工)

中国地方と四国地方（中国・四国州）



(筆者が加工)